

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和6年1月～3月実績

令和6年4月～6月見通し

福井県商工会連合会



## <景況調査の概要>

- 1 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
- 2 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
- 3 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
- 4 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
- 5 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
- 6 調査対象期間 令和6年1～3月期実績及び令和6年4～6月期見通し
- 7 調査時点 令和6年3月1日（金）
- 8 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	49	29.7%	49	29.7%	100.0%
サービス業	54	32.7%	54	32.7%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

## 9 DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について<増加・上昇・好転>の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

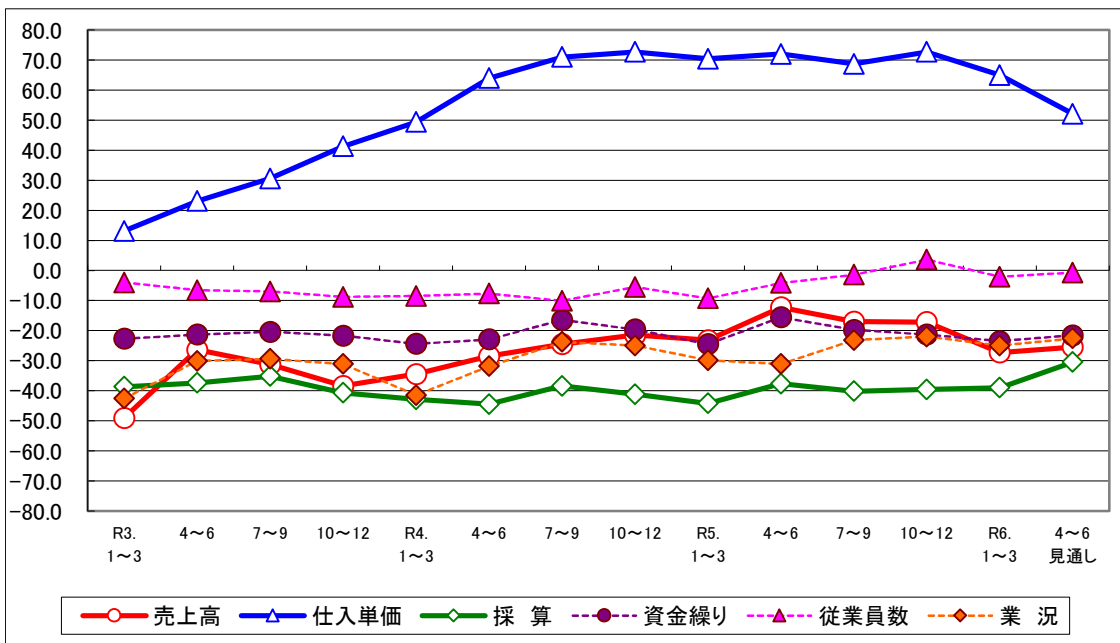
- 10 分析執筆者 仁愛大学人間学部 教授、福井県立大学 名誉教授 南保勝氏

## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

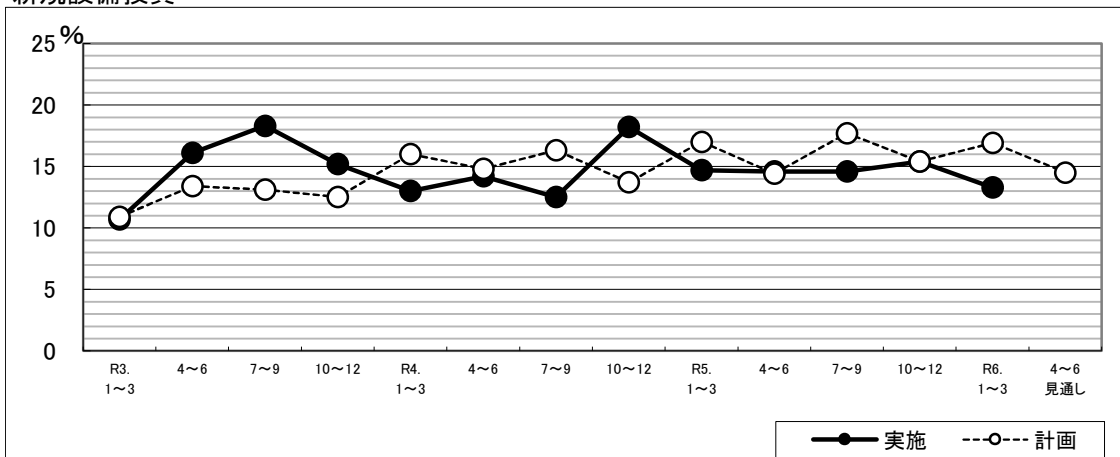
### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12	▲ 21.5	72.7	▲ 41.2	▲ 19.6	▲ 5.5	▲ 25.0
R5.1~3	▲ 23.2	70.4	▲ 44.2	▲ 24.5	▲ 9.3	▲ 29.9
4~6	▲ 12.3	72.0	▲ 37.7	▲ 15.6	▲ 4.2	▲ 31.1
7~9	▲ 17.0	68.7	▲ 40.2	▲ 19.8	▲ 1.4	▲ 23.2
10~12	▲ 17.2	72.7	▲ 39.6	▲ 21.3	3.6	▲ 22.0
R6.1~3	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
4~6 見通し	▲ 25.5	52.1	▲ 30.5	▲ 21.6	▲ 0.7	▲ 22.6

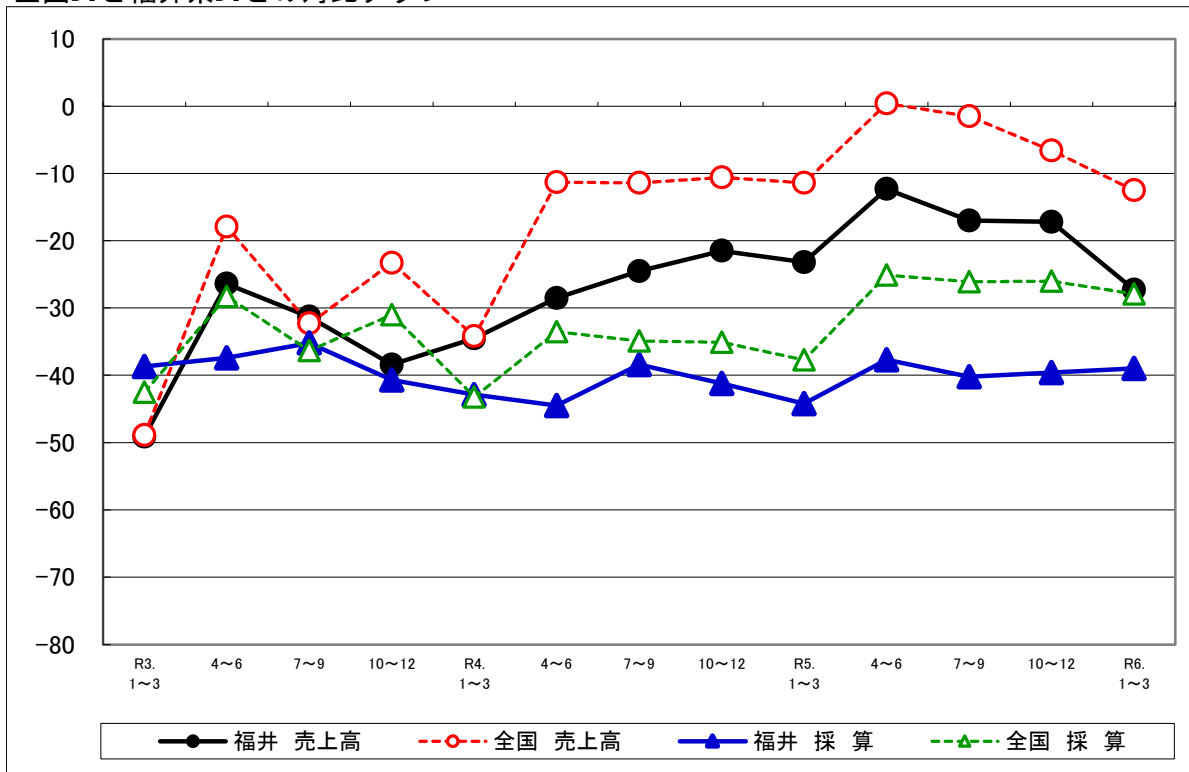
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R6年1-3月期の福井県経済を概観すると、年初に発生した能登半島地震の影響が一部の業種でみられるものの、全体では持ち直しの動きが続いている。ちなみに、企業部門では、生産活動が主力の電子部品・デバイスや化学工業で持ち直しているほか、地場産業の眼鏡枠なども緩やかに持ち直している。家計部門では、個人消費面でホテル・旅館の宿泊者数が地震の影響を受け減少したほか、ホームセンター販売なども暖冬の影響から季節品需要の動きが鈍かった。ただ、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアなど多くの業態は堅調に推移している。先行きについては、地震の影響や物価上昇の長期化、さらには世界的な金融引締めや中国経済の下押しによる海外景気の下振れなど多様な懸念材料が浮上する中で、今しばらく不透明感の強い状況が続くとみるべきであろう。

こうした状況下、今期（R6年1-3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目で悪化、2項目で改善が進んでいる。項目ごとのDI値をみると、改善した項目では、仕入単価（逆指数）が前期72.7→今期65.0、採算が前期▲39.6→今期▲39.0となっている。悪化した項目では、売上高が前期▲17.2→今期▲27.3、資金繰りが前期▲21.3→今期▲23.5、従業員数が前期の3.6→今期▲2.1、業況が前期▲22.0→今期▲25.0となっている。総じてみれば、県内の中小企業では、仕入れ単価が改善したぶん採算も改善したが、売上高の低下は資金繰りの悪化を招き人出不足も加わって、結果としては業況の悪化を招いている。先行き（R6年4-6月期）については、6項目全てで改善予測が立てられており、今期に比べて多少の改善が期待できる。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、売上高は全国、福井県ともに悪化しているものの、採算については全国が悪化する中、福井県は改善となっている。

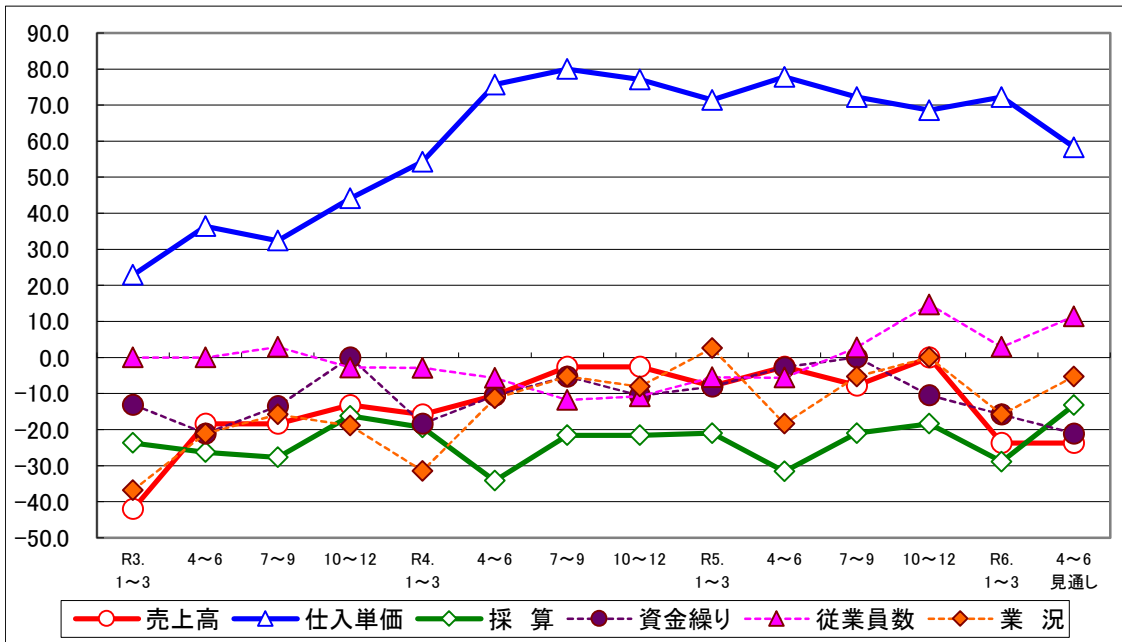
そのほか、今期の新規設備投資については、計画した企業16.9%に対し実施した企業が13.3%と、実施が計画を下回っている。先行きについては、計画している企業が14.5%となっており、今期同様の実施状況が予見される。

## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

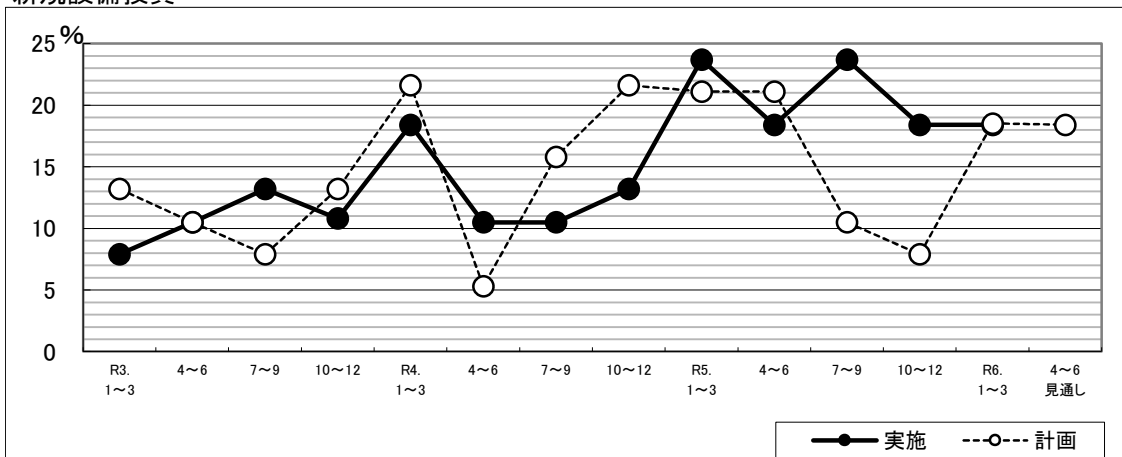
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12	▲ 2.6	77.1	▲ 21.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1
R5.1~3	▲ 7.9	71.4	▲ 21.0	▲ 8.1	▲ 5.5	2.6
4~6	▲ 2.6	77.8	▲ 31.6	▲ 2.7	▲ 5.6	▲ 18.4
7~9	▲ 7.8	72.2	▲ 21.0	0.0	2.8	▲ 5.3
10~12	0.0	68.6	▲ 18.4	▲ 10.5	14.7	0.0
R6.1~3	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
4~6見通し	▲ 23.7	58.3	▲ 13.2	▲ 21.1	11.4	▲ 5.3

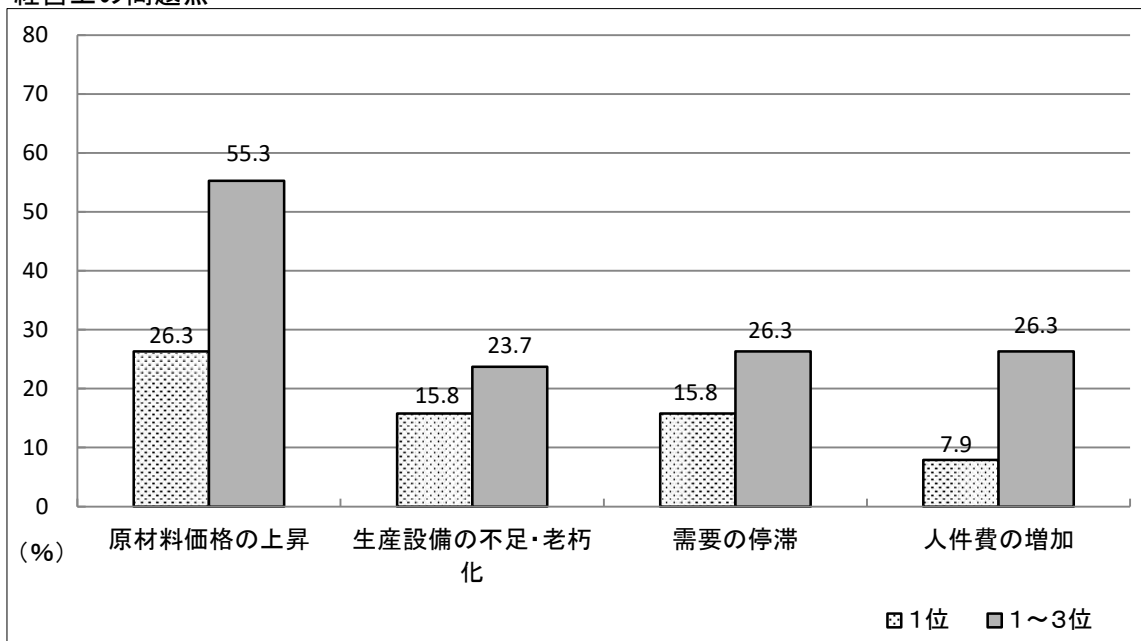
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・木材の仕入値が引き続き高止まりしている。販売価格に一部転嫁できているものの、粗利は依然低いままである。
- ・設備等の老朽化・維持も不安なところだ。
- ・予想以上に業界の動きが悪い。例年どんなに悪くても1月から4月までは忙しい。しかし、2月になってもほとんど動きがない。同業他社に聞いてもどこも仕事が少なく、いつものように売れてくれるか心配している。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業が国内向けなどでやや停滞しているものの、主力の電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に持ち直しているほか、化学工業も環境関連製品などで堅調な動きとなっている。また、眼鏡枠も緩やかに持ち直しているほか、非鉄金属なども堅調な操業度合を維持している。そのため、福井県の製造業全体では、業種間格差はみられるものの、徐々に持ち直しの動きを強めていることが予見される。

ただ、今期（R6年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目全てが悪化傾向となった。この要因は、県内製造業で業種間、規模間格差が広がっており、特に中小・小規模企業では、仕入れ価格の上昇を売上に転嫁できず、厳しい経営環境を強いられる企業が多いためであろう。ちなみに、項目別のDI値をみると、売上高が前期0.0→今期▲23.7、仕入単価（逆指数）が前期68.6→今期72.2、採算が前期▲18.4→今期▲28.9、資金繰りが前期▲10.5→▲15.8、従業員数が前期14.7→2.9、業況が0.0→▲15.8へと悪化している。先行き（R6年4～6月期）については、4項目で改善予想となり、悪化予想は1項目にとどまっている。

一方、新規設備投資の状況については、計画の18.5%に対し実施が18.4%と、順調な投資状況となった。先行き（R6年4～6月期）についても、何らかの投資を予定する企業が18.4%あり、ほぼ今期同様の投資状況となる見込みである。

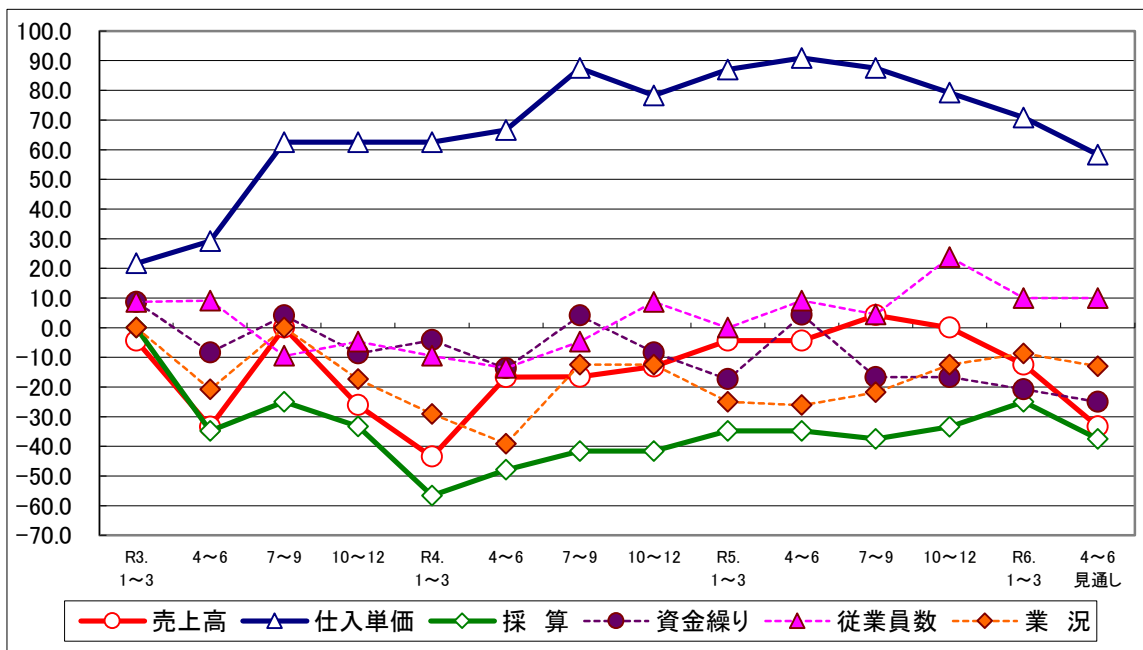
最後に、経営上の問題点については、「原材料価格の上昇」が最も多く26.3%（1位～3位までに挙げた企業55.3%）を占めた。個別の見解としては、「木材の仕入値が引き続き高止まりしている。販売価格に一部転嫁できているものの、粗利は依然低いままである」、「予想以上に業界の動きが悪い」など、悲観的な見解が多い。

## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

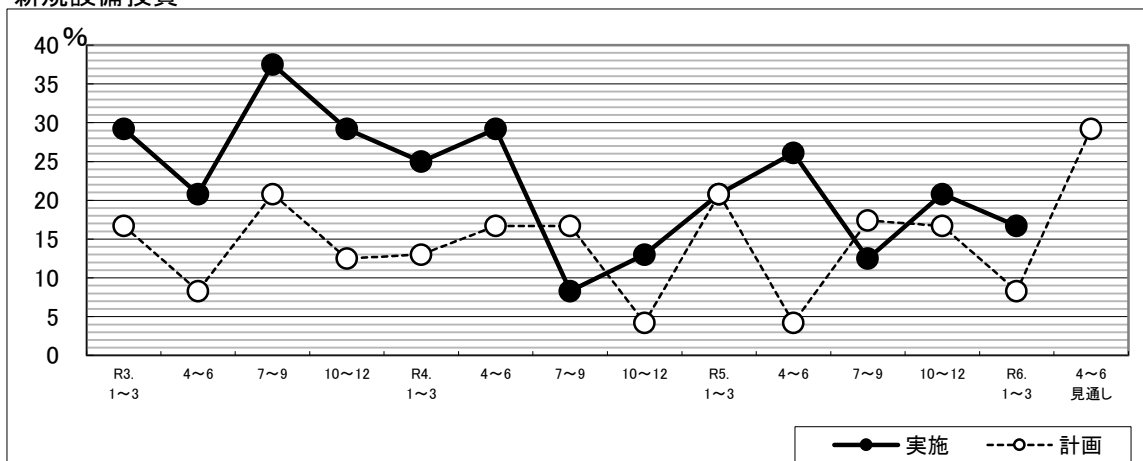
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12	▲ 13.1	78.3	▲ 41.6	▲ 8.4	8.7	▲ 12.5
R5.1~3	▲ 4.4	87.0	▲ 34.8	▲ 17.4	0.0	▲ 25.0
4~6	▲ 4.4	90.9	▲ 34.8	4.3	9.1	▲ 26.1
7~9	4.2	87.5	▲ 37.5	▲ 16.7	4.5	▲ 21.8
10~12	0.0	79.2	▲ 33.4	▲ 16.7	23.8	▲ 12.5
R6.1~3	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
4~6見通し	▲ 33.3	58.3	▲ 37.5	▲ 25.0	10.0	▲ 13.0

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

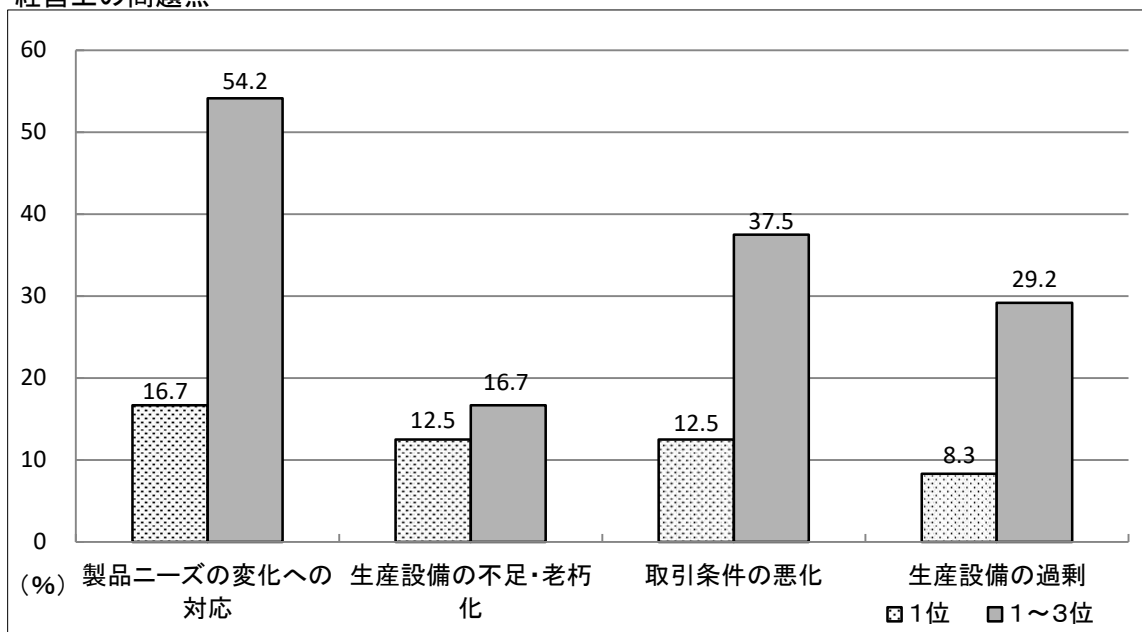


### 新規設備投資





## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 工事受注額はあるが、採算が合わない工事も多く、今年は雪も少ないため、除雪金額も例年に比べ低くなる見通し。工事進捗も気候に寄るところが大きいので、工事完成が遅れがちである。
- ・ 今期は官公庁の発注量が例年に比べて少ないように思う。材料価格の上昇や従業員の確保難も続き、厳しい状況が続くと思われる。
- ・ 電気材料の入手困難な状況は変わらず、価格も高騰しており、採算が悪化している。関西圏の好景気に引きずられて下請業者が不足しており、建築会社の工程に合わせる事が難しくなっている。

## 建設業の景況

福井県内におけるR5年度（R5年4月～R6年3月期）の建設需要をみると、公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）は、請負金額が累計で1,290億09百万円の前年同期比14.9%の減少、発注件数では同3,703件の同2.7%の減少となっている。主な発注者別でみると、県関連工事が542億81百万円の前年同期比3.6%減となったものの、市町村関連工事は、392億20百万円の同2.1%増となった。そのほか国関連工事、独立行政法人等は軒並み減少する結果となった。一方、住宅投資については、R5年4月～R6年2月の累計で、同期比17.4%減の3,547戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比13.7%減の1,788戸、貸家が同25.1%減の1,323戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れが懸念される。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が3項目、悪化した項目が3項目となった。各項目別のDI値をみると、売上高が前期0.0→今期▲12.5、仕入単価（逆指数）が前期79.2→今期70.8、採算が前期▲33.4→今期▲25.0、従業員数が前期23.8→今期10.0、業況が前期▲12.5→今期▲8.7となっている。また、先行き（R6年4～6月期）については、悪化予想が4項目を数え、景況に対する業界内での見方は引き続き厳しいものとなっている。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業8.3%に対し実施した企業が16.7%で、まずまずの投資状況を示した。先行き（R6年4～6月期）についても、投資計画を持つ企業が29.2%に達しており、今後の投資意欲は比較的旺盛であることが予想される。

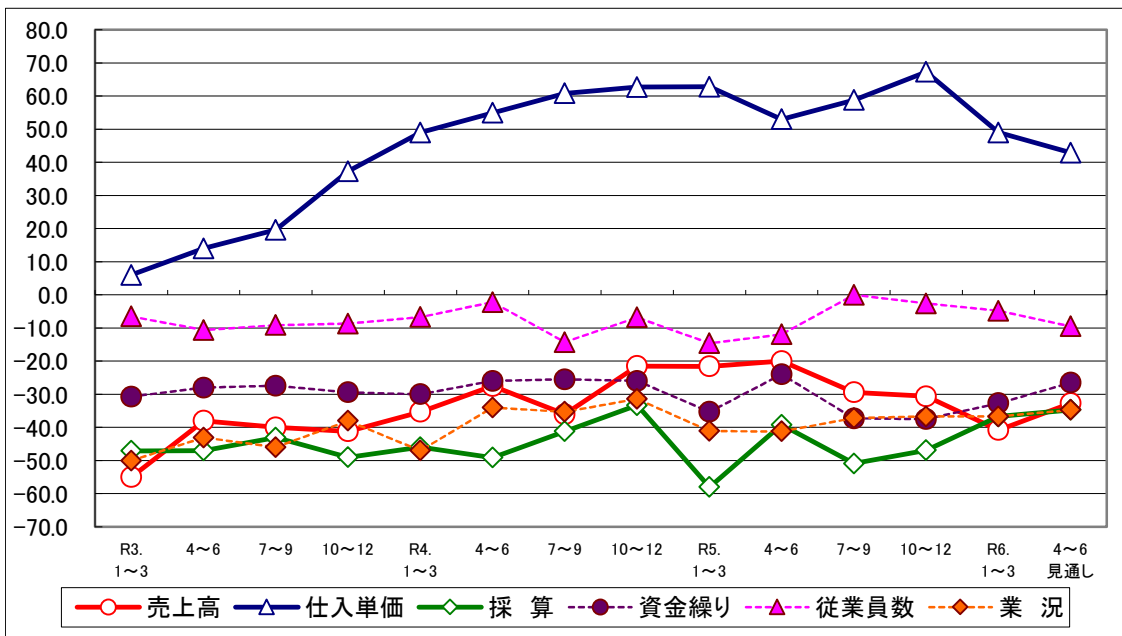
最後に、経営上の問題点については、回答率1位が「製品ニーズの変化への対応」で16.7%（1位～3位に挙げた企業54.2%）であった。個別の見解としては、「工事受注額はあるが、採算が合わない」、「今期は官公庁の発注量が例年に比べて少ないように思う」など、悲観的な見解が目立っている。

## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

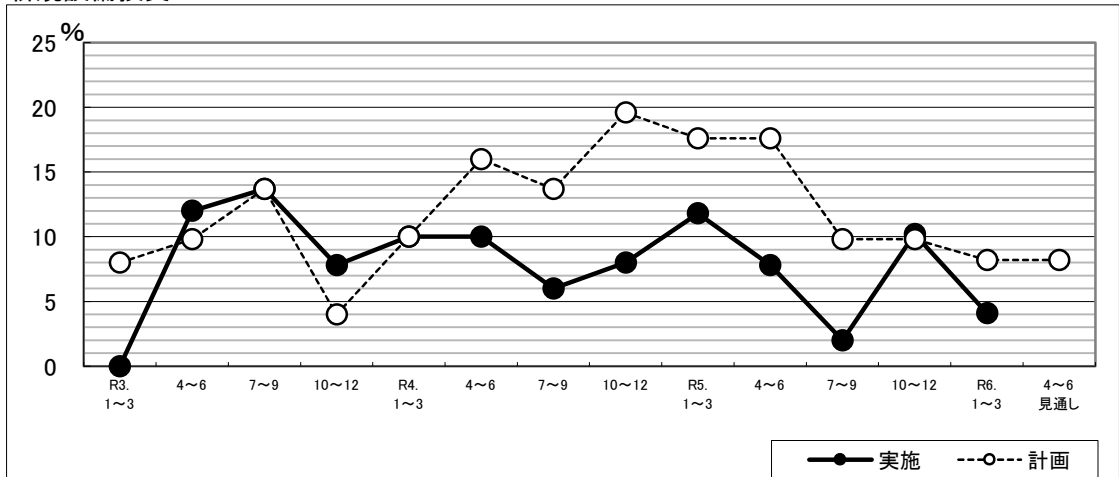
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12	▲ 21.5	62.7	▲ 33.3	▲ 26.0	▲ 6.8	▲ 31.4
R5.1~3	▲ 21.6	62.8	▲ 58.0	▲ 35.3	▲ 14.6	▲ 41.1
4~6	▲ 20.0	53.0	▲ 39.2	▲ 24.0	▲ 11.9	▲ 41.2
7~9	▲ 29.4	58.8	▲ 50.9	▲ 37.3	0.0	▲ 37.2
10~12	▲ 30.6	67.3	▲ 46.9	▲ 37.5	▲ 2.6	▲ 36.7
R6.1~3	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
4~6見通し	▲ 32.7	42.9	▲ 34.7	▲ 26.5	▲ 9.5	▲ 34.7

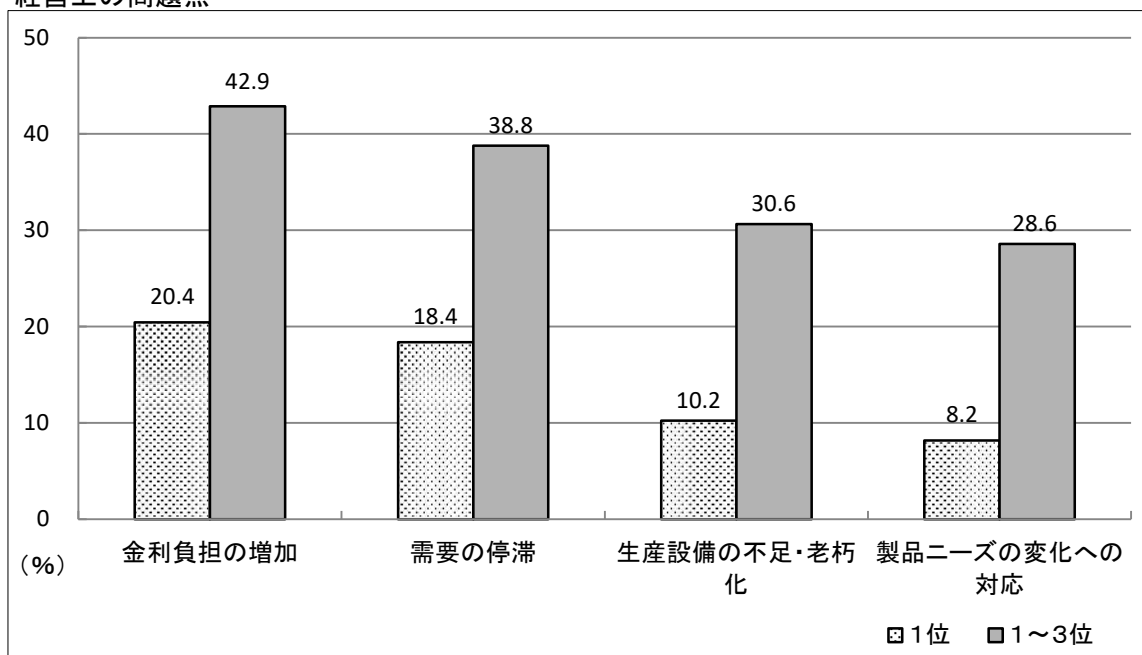
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・地元住民を中心に底堅い売上有るものの、ドラッグストア等の競合店への流出により、売上高の回復は難しいと考える。
- ・新幹線開通により、現状、水産物の水揚げ減少による商品の取り合いがある中、今まで以上に商品仕入れが難しくなっている。
- ・お客様の高齢化で来客数が減った。物価の高騰で、洋服を買うという気持ちにならないのではないかと思う。

## 小売業の景況

最近の小売商況（R6年1～3月期）を概観すると、ホームセンターなど一部の業態で季節需要の落ち込みがみられるものの、ドラッグストア、百貨店・スーパー、コンビニエンスストアなどでの持ち直しが続いており、県内小売商況は概ね堅調に推移している。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR6年2月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）は、飲食料品の堅調な伸びに支えられ、前年同月比1.1%増（全国7.6%増）の65億82百万円であった。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち改善した項目が3項目、横ばいが1項目、悪化が2項目となり、項目によるバラつきがみられた。項目別DI値をみると、売上高が前期▲30.6→今期▲40.8、仕入単価（逆指数）が前期67.3→今期49.0、採算が前期▲46.9→今期▲36.7、資金繰りが前期▲37.5→今期▲32.7、従業員数が前期▲2.6→▲4.8、業況が前期▲36.7→今期▲36.7となっている。先行き（R6年4～6月期）については、従業員数を除く5項目で改善予想が立てられている。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の8.2%に対し実施が4.1%と、低調な投資動向となった。先行き（R6年4～6月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが8.2%にとどまり、投資マインドの回復は厳しい。

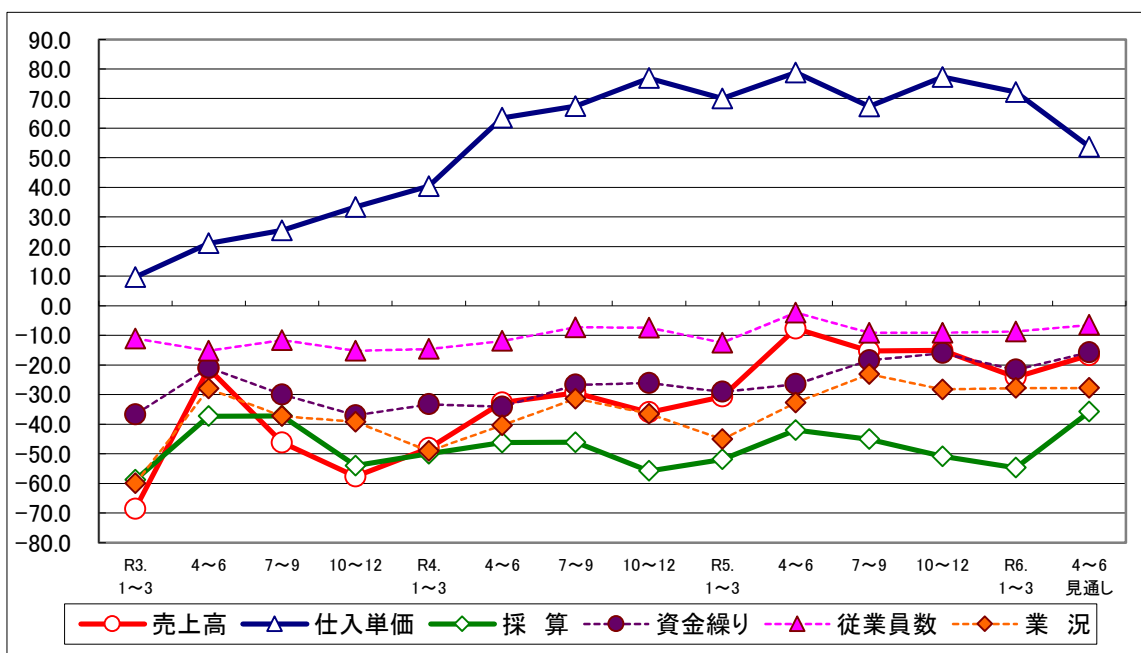
最後に、経営上の問題点については、「金利負担の増加」が最も多く、1位に挙げた企業20.4%、1位～3位までに挙げた企業42.9%を占めている。個別の見解としては、「ドラッグストアなど競合店の参入により売り上げの回復は厳しい」、「水産物の水揚げ減少の中、仕入れがこれまで以上に難しくなった」、「お客様の高齢化で顧客数が減った」など、悲観的な見方が目立っている。

## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

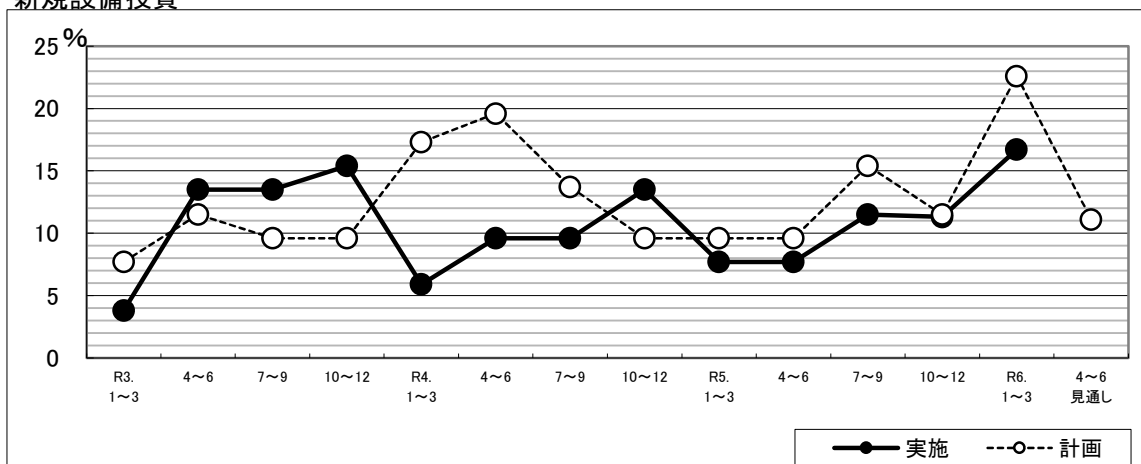
### 景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12	▲ 36.0	76.9	▲ 55.8	▲ 26.1	▲ 7.4	▲ 36.5
R5.1~3	▲ 30.7	70.0	▲ 51.9	▲ 29.1	▲ 12.5	▲ 45.1
4~6	▲ 7.7	78.8	▲ 42.0	▲ 26.5	▲ 2.3	▲ 32.7
7~9	▲ 15.3	67.3	▲ 45.1	▲ 18.4	▲ 9.1	▲ 23.1
10~12	▲ 15.1	77.3	▲ 50.9	▲ 16.0	▲ 9.1	▲ 28.3
R6.1~3	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8
4~6見通し	▲ 16.7	53.7	▲ 35.8	▲ 15.7	▲ 6.5	▲ 27.8

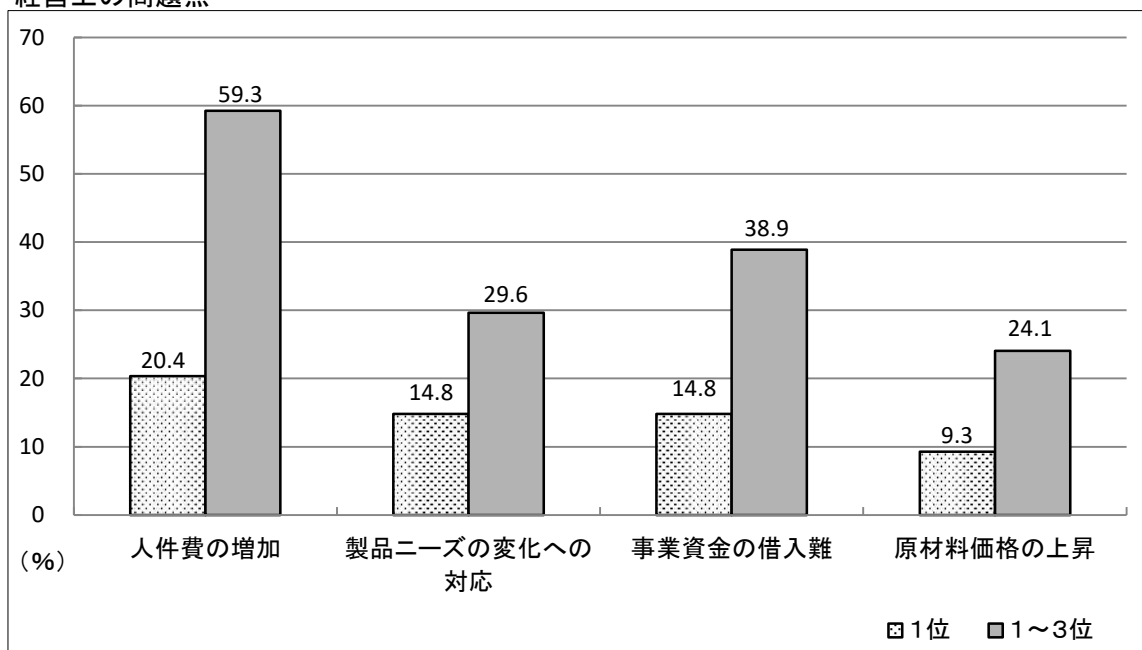
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・食材の値上がりが続き仕入高が上がり続けている。提供価格は据え置いているが、工夫によりボリューム感を出すよう努力しているが、限界に近い。価格値上げを検討する段階にある。
- ・多少仕事量が増えているように思われるが、固定客がほとんどで新規のお客さんは難しいと思う。材料(魚)が思うように入らない。
- ・都会・地方、中でもそれぞれの現場によって様々に違いがあるのに、都会中心に考える現状に、小さい会社はついていけない。それでも地元で根差した小さな会社が頑張っていることに理解と支援をして欲しい。

## サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」(R6年1月、季節調整値)をみると、指数値100.9、前月比0.3%の上昇となった。この要因は、4年ぶりの行動制限のない冬期休暇などにより、生活娯楽関連サービスなどを中心にサービス消費が増加したことによる。ちなみに、1月の業種別の動きをみると、11業種中、5業種が前月比上昇、6業種が低下となった。特に、生活娯楽関連サービスでは、飲食店・飲食サービス業で堅調な外食需要などを背景に全ての業種が上昇となった。洗濯・理容・美容・浴場業も、美容業が例年に比べ暖かく好天にも恵まれたことによる外出機会の増加などから上昇している。しかし、事業者向け関連サービス業などでは、主要取引先の業容が今一つ不冴えであることなどを主因に、技術サービス業、機械設計業、廃棄物処理業などで活動が低下している。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中3項目で改善、3項目で悪化となった。項目別の指数は、売上高が前期▲15.1→今期▲24.1、仕入単価(逆指数)が前期77.3→今期72.2、採算が前期▲50.9→今期▲54.7、資金繰りが前期▲16.0→今期▲21.6、従業員数が前期▲9.1→今期▲8.7、業況が前期▲28.3→今期▲27.8となっている。また、先行き(R6年4-6月期)については、5項目で改善予想となっている。

一方、新規設備投資については、計画22.6%に対し実施が16.7%となり、やや精彩を欠く投資動向となった。先行き(R6年4-6月期)についても、何らかの投資を考える企業ウエイトは11.1%にとどまっている。

最後に、経営上の問題点については、「人件費の増加」(1位に挙げた企業20.4%、1位~3位までに挙げた企業59.3%)への指摘が最も多い。個別の見解として、「食材の値上がりが続き、仕入高が上昇している」、「固定客がほとんどで新規のお客さんは難しい」など悲観的な見解が目立っている。こうした中、「地元で根差した小さな会社が頑張っていることにも目を向けてほしい」といった意見もあり、地域間格差が拡大する中、厳しい環境を乗り越え、ひたむきに頑張る地元企業が存在する現実を確認しなければならない。

全国・福井景気動向 令和6年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0.0	-0.1～ -15	-15.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	横ばい	やや悪化	悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 12.5	68.5	▲ 27.9	▲ 17.2	▲ 3.6	▲ 19.8
	製造業						
	DI値	▲ 11.6	66.7	▲ 22.0	▲ 15.2	▲ 2.5	▲ 16.6
	建設業						
	DI値	▲ 16.3	71.6	▲ 27.3	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 15.9
	小売業						
	DI値	▲ 23.2	66.6	▲ 34.6	▲ 22.7	▲ 2.8	▲ 31.0
	サービス業						
DI値	▲ 3.7	69.1	▲ 26.5	▲ 15.9	▲ 3.5	▲ 15.5	
福井	全体						
	DI値	▲ 27.3	65.0	▲ 39.0	▲ 23.5	▲ 2.1	▲ 25.0
	製造業						
	DI値	▲ 23.7	72.2	▲ 28.9	▲ 15.8	2.9	▲ 15.8
	建設業						
	DI値	▲ 12.5	70.8	▲ 25.0	▲ 20.8	10.0	▲ 8.7
	小売業						
	DI値	▲ 40.8	49.0	▲ 36.7	▲ 32.7	▲ 4.8	▲ 36.7
	サービス業						
DI値	▲ 24.1	72.2	▲ 54.7	▲ 21.6	▲ 8.7	▲ 27.8	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。

